

冠着神社の里宮と姨捨孝子観音が鎮座する郷嶺山ごうれやま

(冠着山の自然と文化遺産を保存する会)

郷嶺山には、姨捨孝子観音が鎮座し、また、冠着山頂上の冠着神社(里宮)が祀られている。(パワースポット)

さらに、更級観月殿や歌碑と句碑が建ち並び、観月のメッカである。

東側には、「そば処」さらしな里「展望館」があり、素晴らしい景観を見ながら、有名な「さらしな蕎麦」などを食べることもできる。(郷嶺山は、羽尾村の時代に恒例山と呼称)

(1) 姨捨孝子観音

この地が**姨捨伝説ゆかりの地**であるとともに、**親孝行者の里**であることを顕彰するため、昭和36年(1961年)、姨捨孝子観音が建立され、併設された石碑「姨捨孝子観音由来之碑」には、その由来と姨捨伝説が刻まれている。毎年、4月15日には、この山を管理している地元の羽尾第四区と羽尾第五区(両区)の主催による「姨捨孝子観音例大祭」が、明德寺住職の司祭によって挙行されている。この例大祭は、春の祭りとしての五穀豊穰と地域の安寧を祈願する祭りであるとともに、老人の知恵と親孝行者の里であることを顕彰する意味も含まれている。

姨捨孝子観音を参拝すれば、「老人の知恵が研ぎ澄まされ、いつまでも若さを保ち長生きができる」

そして、「**親孝行者のやさしく賢い心が授かり、幸せな家庭が築かれる**」と言われている。

(2) 冠着神社の里宮 (六社と歴代の神々が合祀)(六社——冠着社、瀧社、諏訪社、秋葉社、三島社、須坂社)

明治三十九年の勅令「一町村一神社」により、冠着山の頂上に大字羽尾の六社が合祀され冠着神社となった。冠着神社には、六社の他に祖霊神など歴代の神(月読命、大国主命、石尊大権現など)も祀られている。そして、冠着山の地元の郷嶺山に六社の祠を集め、**頂上に姨捨山遥拝殿(日本遺産のストーリー)**、その下に更級観月殿(観見殿)を建てて(明治24年)冠着神社の里宮とした。よって里宮にも六社の神々が祀られている(下の絵図は明治時代のもの)。郷嶺山頂上には、三峯神社、御嶽神社、金毘羅社、も祀られている。

(3) 観月と和歌や俳句愛好家の聖地

今日、月の都「さらしな」の里は、冠着山(姨捨山)の裾野に広がる千曲川の西地区全域を指しているが、かつては、冠着山のおひざ元である旧更級村が中心であった。そのことから、明治時代の中頃、旧更級村初代村長の塚田雅丈らの働きかけによって、郷嶺山は、長楽寺周辺と並び称される観月と和歌や俳句愛好家のメッカとなった。

観月殿の周辺には、句碑や歌碑が明治30年頃に建立された。その主な碑は、大島浮名、浮名の妻静子、木浦、月露舎花恵(上水茂三郎)、瑞雲舎鳳斎(小河原岩吉の二男)、真練舎秋水(西沢重右衛門の長男)など10碑(裏面参照)。

現存する更級観月殿、句碑や歌碑が往時を偲ばせている。また、平成17年、地元の有志によって「観月会」が復活され、毎年中秋の名月には盛大に行われている。

(4) 大島浮名と塚田雅丈

大島浮名は加賀藩支藩の大聖寺出身の藩主、姨捨山復権運動の際、塚田雅丈に協力した。

そして、塚田雅丈とともに発起人となり明治24年4月郷嶺山に里宮である観月殿を建設した。この事業を称えて大島浮名夫妻の歌碑を観月殿の前に建立した。そして、雅丈本人の顕彰の碑「姨捨山の碑」が大正七年地元有志によつて観月殿横に建立された。



姨捨山遥拝殿(日本遺産のストーリー)

御嶺山の句碑と歌碑

14・10・4

碑のほとんどは 明治三十年前後の建立

塚田雅太翁の「冠着復権運動」

真の娼捨山は 冠着山である

一、六十年の白髪も月の明りかな 貞練舎 秋水

二、心にも曇りなきよの月見かな 瑞雲舎 鳳斎

三、月に明け 華に 暮行 人の道 月露舎 花恵

四、十二ある中の一ツや月の十五夜 信月庵 妖遷

四、いまよとて仰ぐや月の山はなれ 三世 橋島

五、(1) いにしえの月の都を人とはば

雲井にちかき 娼捨の山 大島 浮名

四世の座を 私ひ尽して 清かなる 移り住む

うらな山の月にならむ 一ツ女

六、娼捨にやかりたり 大銀河 春人

七、更級や いま 田毎に いぬの花 木南

八、照る月の御影もさむしふる雪の

このしう衣 冠着の山 藤原 安貞



娼捨孝子観音



合祀された地元六社の祠



観月殿(冠着神社の里宮)